生徒向け校長通信 ～ 名言にちなんだエッセイです

あうん

教師と生徒・保護者があうんの呼吸で教育ができることを願って‥‥

第 ３０ 号
令和５年３月２４日

遅くにはじめたからといって、俺たちはなんの損もしていないのだ

鈴木智彦『ヤクザときどきピアノ』

「『ダンシング・クイーン』が弾きたいんです」――『サカナとヤクザ』『ヤクザと原発』などの潜入ルポで知られる52歳のベストセラー・ライターが、今度はピアノ教室に？！　校了明けに観た１本の映画が人生を変えた。憧れていたピアノをいまこそ弾きたい。譜面も読めない「俺」が、舞台でＡＢＢＡを演奏するまでの１年と少しの軌跡。　（ＣＣＣメディアハウス「本の紹介」より一部転載）

新たなスタートを切る節目は、年もあらたまる１月１日か、それとも新年度が始まる４月１日か？

大きな問題である。「一年の計は元旦にあり」。昔の人のいうことは聞くものだ。長い経験則からうまれた言葉に従うと大概うまくいくのである。であるが、正月から何かを始めようとするのはかなりハードルが高い。正月ほど誘惑の多いものはないからだ。お節にお餅にカレーもね、である。２日には駅伝もある。さらに外は寒いときてる。家の中でぬくぬくとしていたいのが人情というものだ。

その点、４月１日は学校を中心とする者にとっては絶対的な節目である。クラスも教科書も変わる。何かを始めるには４月１日しかない。

そういう４月の決意である。僕の場合は毎年決まっている。「今年こそ英語を勉強する！」というわけでＮＨＫのラジオ英会話を聞き始めるのだ。そしてゴールデンウィークの頃には挫折していく‥‥

『ヤクザときどきピアノ』の作者、鈴木智彦さんはヤクザではない。ヤクザを取材するライターである。ヤクザが時々ピアノを弾くのではなく、向かい合うのがヤクザが主で、ときどきピアノという意味だ。ともかく鈴木さんはピアノで ABBA の『ダンシング・クイーン』を弾きたいと思い立ち、ピアノの先生を探すところからこのルポは始まる。五十を超えた強面（こわもて）のおっさんがピアノの先生について習おうとするのだ。本人は本当に真剣に習いたいと思っているのに、なかなか引き受け手はない。ピアノの先生は女性の方が多いので身を守る意識もあるのだろうとご本人も書いている。そんななかでレイコ先生に出会う。彼女はきっぱりこう言った。

「練習すれば、弾けない曲などありません」

そこから鈴木さんはひたすら『ダンシング・クイーン』目指して奮闘していく。同じおっさんである僕は彼から勇気をもらう。

「理解の早道は自分がやってみることだ」

そう言って、毎日ピアノに向かっていく。鈴木さんは最後にピアノ発表会で『ダンシング・クイーン』を披露する。その様子は YouTube で見ることができる。完璧ではない、なんとか弾き終えたという方が正確かもしれない。でも僕は、この歳になって新たに始めることの難しさや人に教えを請うことの大変さをわかっているだけに、鈴木さんのピアノ演奏に涙が出た。純粋に尊敬する。彼は言う。

「遅くにはじめたからといって、俺たちはなんの損もしていないのだ」

そうなのだ。何かを始めるのに早いに越したことはないが、遅いからといって何かを始めない理由にはならない。やろうという意志無くして成長なし。

さあ、４月１日に何かを始めよう！